

読解の理論

では、問題文を正確に読解する方法を説明しましょう。それは、一言でいえば論理的に読解することです。論理的とは、接続詞や指示語、言い換え表現を見つけたら、「前の話を詳しくしているな」とか「前の話と逆の話になったな」などと文章の筋道にそって読むということです。

みなさんには、現代文は点数が安定しない科目だというイメージがありませんか？ もし、そのようなイメージがあるとすれば、それは、今まで感覚的に文章を読んで、なんとなく解答を作成してきたからだと思います。

感覚的に解いていた場合、なにしろ感覚ですから、解答の根拠が合う時も合わない時もあります。また、感覚を根拠にした場合、自分的にはこう考えるということになり、複数の解答が生まれてしまいます。

一方、論理的に読解した場合、解答は、一つの方向に向かいます。また、正しく考えれば考えるほど、そして、その結果を、正しく表現すればするほど、確実に点数を獲得することが可能です。

論理的読解のための7つの道具

- ① 対比を見抜く方法
- ② 換言を見抜く方法
- ③ 因果関係を見抜く方法
- ④ 主語と述語の関係を見抜く方法
- ⑤ 抽象と具体の関係を見抜く方法
- ⑥ 指示語の指示内容を見抜く方法
- ⑦ 対等関係を見抜く方法

どれも基礎的な方法です。ですが、基礎的だからといっておろそかにしてはいけません。先ほど東大の現代文の問題は、基礎的な知識や考えの組み合わせと述べました。この7つの方法のうち、受験生としては、例えば、「対比は聞いたことがある」「指示語はできるだけチェックしている」「言い換え関係には気をつけている」というように、これらの方法のいくつかが意識したことがあると思います。しかし、この7つの方法のすべてを意識して問題に取り組んでいる受験生は、ほぼゼロだと思います。

ために、先にあげた7つの方法のうち、いくつを意識しているか自分自身でチェックしてください。さすがにゼロという人はいないと思いますが、7という人もいないはず。少ない人は1から2、多い人も4から5というところではないでしょうか。平均す

感覚的な読解 ↓ 複数の解答が生まれてしまう ↓ 点数が不安定
 ↳
 論理的な読解 ↓ 解答が一つの方向に向かう ↓ 点数が安定する

したがって、本番で確実に合格点を獲得するためには、まず、今までの感覚に頼った方法と決別してください。そして、徹底的に論理的な読解法を身につけることを意識してください。

① 論理的読解法とは

論理的な読解のために必要なのは、次の7つの方法です。この方法を7つの道具として身につけてもらいます。道具は、多すぎても使いこなせないし、少なすぎて役に立ちません。武士が戦場で使うのは、具足、刀、太刀、弓、矢、母衣、兜の7つの武器だったといえます。受験生にとっても、入試は戦いです。その戦いに勝利するための道具は、次の7つです。

ると3ぐらいになるはず。です。

仮に君のチェックした項目が3だったとしましょう。受験生としては、普通かもしれないませんが、チェックしていなかった4項目が、実は、現代文読解における自分自身の弱点です。7つの項目のすべてが基礎的な方法であることを思い出してください。基礎的な読解の方法のうち4項目が意識の中から抜け落ちてしまっているのです。それでは安定した点数を獲得するのは困難です。

したがって、君がしなくてはならないのは、今まで意識していなかった方法も意識する、論理的読解を助ける7つの道具の有無を確認するようにし、7つの道具のすべてを使いこなせるようになることです。ただし、気をつけてほしいのは、今まで意識したと思っていた方法に関しては、より完璧に意識することです。受験生と接していると、対比関係や指示語は意識していると本人はいついていたはずなのに、肝心な時に指示語を意識していなかったり、対比関係に気がついていなかったりするケースに出会うことがたびたびです。つまり、持っていたはずの道具を使うのを忘れていたのです。

7つの道具のうち、使いこなせる道具が3、4、5と増えていくにしたがって、現代文の成績も確実に上がります。今まで多くの受験生を見てきましたが、7つの道具のすべてを使いこなすようになる受験生は、こ

く少数です。そして、そのごく少数の受験生が、東大をはじめとする難関大学に、当然のように合格していきます。

次は、君の番です。東大が求めている能力が、基礎的な知識や考えを組み合わせさせて思考する能力である以上、基礎的な知識や方法に関しては、完璧にすべきです。では、7つの道具に関して詳しく説明していきます。

2 対比の重要性

対比とは、対にして比べることです。では、なぜ対比の関係を見抜くことが大切なのか。それは、筆者の考える筋道、すなわち論理を正しく追うためです。根本的な話になりますが、文章とは、筆者が何かについて考えた結果です。そして、何かについて考える時、人間は対比という作業をしないで考えることができないのです。

例えば、わかりやすい例を挙げれば、我々は日本人について考える時、西洋人は個人主義であるが、日本人は集団主義であるというようにどうしても、西洋人と比べてしまいます。

また、入試問題でよく出る例を挙げれば、近代という時代を考える上で、前近代との比較になることが少

なくありません。そこまで大きな話でなくても、例えば、人は自分という人間を考える時、自分の周囲の他者といつのか比較しているでしょう。

さらに、上下左右や明暗、長短などの判断も比較によつてなされています。考えてみれば、この世が相対的な世界である以上、何かと比較しない限り、対象を認識することはできないともいえます。しかも、相対的という概念は、絶対的という概念と対になって存在しています。

したがって、問題文が筆者の考えを筋道立てて述べた文章であるならば、そこには対比があります。受験生としては、その対比を見抜くことによつて、筆者の考えの筋道、すなわち論理を把握することが可能になるのです。論理的読解法において、文章中の対比関係を見抜くのは基本中の基本です。

対比には、大きな対比もあれば小さな対比もあります。文章の中で大きな対比を捉えることは、全体的なマクロの視点を受験生に与えます。一方、傍線部付近における小さな対比を捉えることによつて、部分的なミクロの視点を受験生は獲得できます。

対比を見抜くための方法は、次の方法になります。対立概念をXとYとします。

7つの道具①

対比を見抜く方法

- ① 対義語（反対語） 例 絶対（X）⇔相対（Y）
- ② X逆接Y 例 Xは、しかし、Yは、
- ③ Xに対してY
- ④ Xに比べてY
- ⑤ Xに反してY
- ⑥ Xと逆にY
- ⑦ XよりY ※小さな対比に多い
- ⑧ 一方X他方Y（X一方Y、X他方Y） 例 日本と西洋
- ⑨ XとY ※テーマの提示に多い
- ⑩ XではなくYである（YであってXではない） ※否定肯定のパターン

対比を見抜くためには、この10の表現が有効です。今まで自分なりに対比を意識していたという人も、もう一度、この10の表現を身につけて、問題に挑戦してください。全体的なマクロの対比だけでなく、部分的なミクロの対比まで見つかるはず。

全体的なマクロの対比を見抜けば、読解する上で、大きなミスはなくなります。また、部分的なミクロの対比を見抜けば、傍線部解釈などにおいて解答の精度が高まり、得点力をあげることが可能です。

3 換言の重要性

対比を見抜けるようになったら次は換言、すなわちイコール関係です。筆者は、原則的に自分の言いたいことを繰り返します。したがって、文章を読んでいる時に繰り返されている部分があったら、その部分こそ、筆者の言いたいこととなります。

また、対比をおさえた上で換言を見抜くわけですから、Xの言い換えとYの言い換えをそれぞれ見抜く必要もあります。イメージにすると次のようになります。

X ↓ X'
Y ↓ Y'

さらに、換言を見抜くことのメリットは、例えば傍線部の表現が難解な場合、その言い換え表現を見つかることによつて、傍線部の解釈の参考になります。通常、言い換え表現が右のように存在する場合、問題作成者は、言い換え表現の中の、いちばん難解な箇所を傍線を引くものです。ならば、その箇所の内容を考える時に、ほかの言い換え表現を参考にするのは、当然の方法です。

したがって、文章全体を読み進めていく時に、**対比関係を見抜いた上で同じことが繰り返されていると気**